

同志社大学 良心学研究センター主催 公開シンポジウム

# 移植医療と良心

—意思表示があたりまえの共想社会に向けて—

日本の臓器移植技術は世界最高レベルにもかかわらず、臓器提供者数は世界最低です。多くの方が移植を待ちながら亡くなる現状は、深刻な社会課題です。この課題解決のためには、法制度の整備、医療現場の体制整備とともに、臓器移植に対する人々の意識と行動の変容が重要です。利他的な行為である臓器提供について考え、意思決定をし、その決定をシェアすることは、苦しむ人に思いをはせ、家族や大切な人のことを想う「共想」の行為と捉えることができます。臓器移植・提供について、人々はどうのように考えているのか、関心を持ち、自己決定をする過程に何が影響しているのか、良心とどのように関わっているのかについて、多様な分野の専門家とともに多面的視座で考えていきます。

- 日時：2015年 12月3日（木）16:40 - 18:30
- 場所：同志社大学 今出川キャンパス 神学館礼拝堂
- 講演：瓜生原 葉子（同志社大学 商学部 准教授）

司会：小原 克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）

コメンテーター：木原 活信（同志社大学 社会学部 教授）

藤山 文乃（同志社大学大学院 脳科学研究科 教授）

良心を世界に—良心を覚醒させる知の連携と知の実践



同志社大学 良心学研究センター

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

## 講師 略歴

瓜生原 葉子（うりゅうはら ようこ）

### ■ プロフィール

1965年広島県生まれ。同志社大学商学部准教授，大阪大学大学院医学系研究科特任研究員，京都大学大学院医学研究科非常勤講師。博士（経営学）。専門は戦略・組織マネジメント，ソーシャルマーケティング，移植医療の社会的価値の普及と社会基盤の確立。

薬学部卒業後，外資系製薬企業（Novartis, Eli Lilly）にて，臨床開発，戦略企画，マーケティング，広報，医療政策などに従事。Novartis スイス本社在職中，欧州における移植医療の社会基盤を研究し，「プロ意識を促す組織変革」の重要性を認識したのを機に経営学を志す。神戸大学大学院経営学研究科で博士号を取得後，京都大学大学院薬学研究科研究員，京都大学大学院医学研究科助教を経て2014年4月より現職。多角的な視座で社会課題の解決に資するエビデンスを創出することで，ソーシャルイノベーションの知の連携と実践を目指している。主な著書に『医療の組織イノベーション—プロフェッショナルリズムが移植医療を動かす—』

### ■ 現所属

- 所属：同志社大学商学部准教授，大阪大学大学院医学系研究科特任研究員，京都大学大学院医学研究科非常勤講師
- 学位：博士（経営学）

### ■ 略歴

#### 【学歴】

- 1984年3月 広島大学附属高等学校 卒業
- 1989年3月 静岡薬科大学薬学科 卒業
- 2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科 修士(MBA)課程 修了
- 2011年3月 神戸大学大学院経営学研究科 博士後期課程修了
- 2011年4月 大阪大学大学院医学系研究科医学専攻 博士課程入学（2013年3月就職のため退学）

#### 【職歴・研究歴】

- 1989年4月 ノバルティスファーマ株式会社入社，臨床開発部，移植・免疫事業部プロダクトマネージャー，Novartis Transplantation & Immunology Business Unit Global Brand Manager，シニアマネージャーなどを歴任
- 2007年9月 日本イーライリリー株式会社 渉外企画部 部長

2009年10月 メディカル・バリュー・クリエーション 社長  
2011年4月 神戸大学大学院経営学研究科 研究員 (2012年3月まで)  
2012年4月 京都大学大学院薬学研究科 博士研究員 (2013年3月まで)  
同志社大学大学院総合政策科学研究科 嘱託講師 (2014年3月まで)  
立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科 非常勤講師 (2015年3月まで)  
2013年4月 京都大学大学院医学研究科, 学際融合教育研究推進センター 助教 (2014年3月まで)  
2014年4月 同志社大学商学部准教授, 京都大学大学院医学研究科非常勤講師  
2015年4月 大阪大学大学院医学系研究科特任研究員

#### 【受賞歴】

- 第4回神戸大学 MBA 論文賞 (2008年3月)
- 第1回凌霜賞 (社会科学特別奨励賞) (2008年6月)
- 第3回凌霜賞 (社会科学特別奨励賞) (2010年5月)
- 臨床腎移植学会メディカルスタッフ研究奨励賞 (2015年2月)

#### 【著書】

『医療の組織イノベーション—プロフェッショナルリズムが移植医療を動かす—』(単著, 中央経済社, 2012年) ※産経新聞書評, 労務学会雑誌などで高く評価され, 2012年労務学会賞最終2作品に残る。

#### ◎ご案内

公開シンポジウム「シリア内戦、難民の奔流、そしてパリ同時多発テロ」

日時：2015年12月9日(水) 16:40-18:30

場所：同志社大学 今出川キャンパス 神学館礼拝堂

講演：内藤 正典 (同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 教授)

司会：小原 克博 (同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長)

コメンテーター：

菊池 恵介 (同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 准教授)

Idiris Danismaz (同志社大学 高等研究教育機構 特定任用研究員)

# 移植医療と良心

## —意思表示があたりまえの共想社会に向けて—

瓜生原葉子（同志社大学 商学部准教授）

### 1. 移植医療とは何か

- 定義：本シンポジウムでは脳死、または心停止後の臓器提供による臓器移植と定義し、生体からの臓器移植は議論に含めない。また、移植医療は、医師と患者だけではなく、第三者の善意による臓器提供により初めて成立するため、社会的な側面を包括する概念とする。
- 移植医療の意義：①末期臓器不全患者の唯一の根本治療法、②患者へ生活の質の改善をもたらす、③経済的効果をもたらす④社会に融合する医療のあり方を提唱する

### 2. 移植医療における課題

- 移植医療の4つの権利：あげたい、あげたくない、もらいたい、もらいたくない
- 課題1：「あげたい人」と「もらいたい人」を結ぶ社会基盤の整備が不十分であるため、治療機会が逸失されている（日本の臓器提供者数は世界最低）。
- 課題2：臓器提供の意思表示率が低く、提供についての権利が守られていない。家族に対して心的負担を強いている。 日本は、本人の明確な意思表示がない場合にその意思決定が家族に委ねられる「opting-in (explicit consent)制度」を採用しており、本人の意思表示は大変重要。世界最多の意思表示手段(健康保険証、運転免許証、意思表示カード、インターネット登録)が整備されているが、**国民の意思表示率は12.6%**に留まっている。世論調査でも87%の国民が生前の家族の意思表示を尊重したいと回答しているように、**本人の意思表示が家族の決断に大きく影響する**にもかかわらず、その表示率が低い。

### 3. 臓器提供とは

#### 3.1. 臓器提供についての捉え方

- 欧州：「Gift of Life (命の贈り物)」差し迫った必要を感じている人々を助ける慈善的な「カリタス」(無私、見知らぬ他人への思いやりなどキリスト教の基本的な美德)。
- 北米：「愛他心/ 利他心(altruism)」に基づく愛の贈与。
- 日本：「命の贈り物」には互恵的・義務的な感覚が含まれ、馴染まなかった。むしろ、他人の苦しみを救うという仏教的な考え方が受け入れられてきた。

### 3.2. 臓器提供に関する意思決定

- 2つの重要な意思決定と行動：①大切な家族が脳死とされうる状態と判断され、限られた時間で臓器提供をするかどうか、②日頃から臓器提供について考え、提供の可否を意思決定し、意思表示を保険証などの媒体に行い、それを家族と共有すること。
- ①には、ドナーの生前の意思、家族メンバーの臓器提供に対する態度、施された医療に対する満足度が影響し、医療専門職要因が高い。②を議論の焦点とする。

### 4. 臓器提供への態度、意思表示行動に影響を及ぼす因子についての先行研究

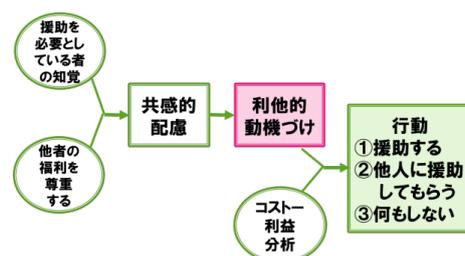
- **知識**:知識・理解不足は誤解を生み、臓器提供への不信感や恐れを促している。正しい知識を提供することで、臓器提供への態度がポジティブに変化する。
- **利他性**:人の命を救う、誰かが恩恵を受けるなどの思いは、臓器提供に賛成の態度を促す。利他意識が高い層で賛成の態度が高い。利他性が意思表示行動の重要な動機付け。
- **コミットメント**:臓器提供について考えるのに費やした時間とエネルギーが行動を起こす。
- **共感, 行動規範, 向社会行動**:提供行動(献血, 寄付, ボランティア)と正の相関がある。

### 5. 臓器提供と意思表示に関する日本の現状(10,000例を対象とした定量分析結果)

- 意思表示行動のステージを、①関心なし、②関心を持ち考え中、③態度決定、④行動の4段階に設定。関心度(②)43.4%、行動意図(③)は36.9%、意思表示(④)は19.3%(③に対して52.3%)であり、関心を持つ段階(①→②)、態度を決めて行動に移す段階(③→④)に障壁あり。
- 態度(感情):好ましいこと、良いこと、賛成、必要、しかし不安。
- 意思表示している人は、意思表示の価値の認識、合理性が高く、提供への不安が低い。
- 関心を持たせるためには、知識を提供し、共感や援助規範を高めること。行動に移させるためには、家族や知人・意思表示者と、意思表示について話し合う機会つくることが重要。

### 6. 移植医療と利他性(altruism), 利他行動(altruistic behavior)

- D. Batson(2011)の共感－利他性仮説(図)
- **利他性**:他者の福利を増すという最終目標を伴う動機付け状態。高くても必ずしも利他行動をとるわけではない。
- 利己的要因(共感的喜び, 社会的評価), 精神的・身体的痛み, 時間や金銭的損失などのコスト, 援助しないことへの罪悪感などが考慮され、3つの行動に帰結する。



- 日本は、欧州と異なる制度下にあるため、意思表示が重要。たとえ臓器提供をしないと意思決定しても、NOと意思表示をすることは、家族の心的負担を軽減できるため、その視座において利他行動と捉えることができる。

	臓器提供の意思表示 (欧州などopting-out)	臓器提供の意思表示 (日本などopting-in)	海外渡航への募金
援助知覚	臓器移植を必要としている患者がいる	臓器移植を必要としている患者がいる ・いざという時家族が困る	臓器移植を必要としている患者がいる
他者の福利	死後の臓器提供をすることで、助かる人がいる	・死後の臓器提供をすることで、助かる人がいる ・意思表示することで家族に心的負担を軽減できる	資金があれば海外で移植を受けれる
利他的動機づけ	死後に臓器提供をすることで、誰かを助けよう！	・死後に臓器提供をすることで、誰かを助けよう！ ・意思表示をして家族の負担を減らそう！	募金をすることで、渡航移植を実現させてあげよう！
帰結行動	援助する	・何もしない(意思表示しなくても提供するとみなされる) ・提供意思を家族に話す	・募金をする ・募金のボランティアなどに参加する
	他人に援助してもらおう	(啓発活動などに参加する?)	(啓発活動などに参加する?) 募金の記事などをSNSでシェアする
	何もしない	何もしない(提供するとみなされる)	意思表示をしない 募金をしない

## 7. 移植医療と良心

良心とは、自己の内面と対話し、社会的な問題にも関心を向け、自己・他者と共に考えること。臓器移植を必要としている患者がいること、死後の臓器提供で助かる人がいることを知覚し、適正な知識を得て考え、自身の態度を決定することそのものが良心。万が一の場合の家族に思いを馳せて自分事として捉え、意思決定をし、それを大切な人に共有すること自体が良心。

## 8. 意思表示があたりまえの社会にむけて、良心の実践

- 『臓器提供意思表示について、考え、意思決定をし、その価値ある意思決定を大切な人と共有する行動を促進する』非営利組織”Share Your Value Project (以下、SYVP)”を設立。
- 臓器提供の意思表示を『人や社会とのつながりを大切に作る共想』という価値に変え、「提供する」「提供しない」どちらであっても、意思表示をすることがあたりまえの世の中にあることミッションとし、研究より得られた知見をもとに、良心の実践を行っている。
- [www.facebook.com/shareyourvalue](http://www.facebook.com/shareyourvalue)

※本研究は JSPS 科研費 25460619 の助成、JST 平成 27 年度科学技術コミュニケーション推進事業の支援を受けて実施しております。